

教員役割が多いことです。平成23年度の私の担当科目は、学部講義として整形外科、リハ医学、健康運動学、救急医学、健康管理学、臨床理学療法学演習（OSCEを含む）で、大学院講義として生体機能・病態解析学特論など7科目で、合わせて106回×90分＝9,540分（159時間）講義をします。大阪医科大学リハ医学教室でリハ医学を教えていたのですが、授業はあまり苦にならないと予想していたのですが、年間100時間を超える授業をすることとなると結構大変です。

平成23年に施行された第46回理学療法士国家試験の合格率は、全国平均、74.3%、神戸学院大学理学療法専攻学生は86.0%で、例年90%台後半の合格率でありましたので、大幅に合格率が下がりました。早速、国家試験対策を強化すべくカリキュラム改訂に取り組んでいます。また、4年生前期の臨床実習を途中で継続できなくなる学生が少なからず存在するため、当初予定されていなかったOSCEを取り入れました。

社会に貢献できる理学療法士を育成することが、リハ医療の発展に寄与するものと信じて頑張っていきますので、今後ともご指導ご鞭撻の程どうぞよろしくお願ひします。

神戸学院大学 3 キャンパスの存在場所

有瀬キャンパス 長田キャンパス ポートアイランドキャンパス

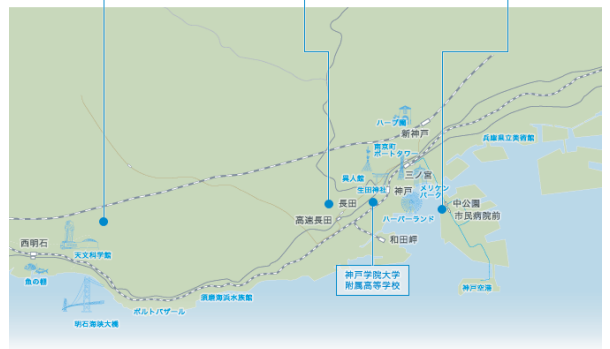


図1

施設紹介〈第11回〉

滋賀県立 小児保健医療センター リハビリテーション科

〒524-0022 滋賀県守山市守山5丁目7-30 TEL:077-582-6200(代)



滋賀県立小児保健医療センターは、JR琵琶湖線守山駅から西へ徒歩約20分の緑に囲まれたところにあります。当センターは我が国19番目の小児総合医療機関として1988年に開設されました。心身に障害を有する子どもを早期に発見し障害の治療や軽減を図るため各種の小児保健サービス機能と運動機能障害を主体とする専門医療分野を担当する施設として、滋賀県における小児保健医療分

野・リハビリテーションの中核的な役割を担っています。

当センターは前身が整形外科であった背景から脳性麻痺やてんかんを始めとする神経疾患患者が多数を占め、県内で最も多くの超重症、準超重症の障害児の診療をしている病院のひとつであり、日本小児神経学会小児神経科専門医研修施設、日本整形外科学会認定研修施設、日本リハビリテーション医学会

研修施設など多数の研修施設として認定されています。特にリハビリテーション科は診療科としては最大規模を誇る重要部門であり、神経疾患、関節疾患、先天異常などの多様な疾患を有する症例に対し、専門的な訓練を実施しています。また骨系統疾患による脚延長等で長期入院を要する学童は、隣接する守山養護学校に通いながら継続した治療・訓練を続けることも可能です。障害をもった児が家族とともに地域で暮らしていけるよう、今後とも地域の福祉・医療との連携を行い、リハビリの継続性、有効性を維持すべく邁進してまいりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。

(医長 平島淑子)



滋賀県立成人病センター リハビリテーション科 滋賀県立リハビリテーションセンター

〒524-8524 滋賀県守山市守山五丁目4番30号 TEL:077-582-5031(代)

滋賀県立成人病センターは1970年に開設された病院です。当院リハビリテーション科は、成人病センターのリハビリテーション科としての診療を行うと共に、2006年に開設された滋賀県立リハビリテーションセンターの医療部門としての機能を担っています。様々な疾患による障害に対して滋賀県の3次医療圏におけるリハビリテーション科として各診療科との協力体制のもとで行っています。日本リハビリテーション医学会の専門医制度研修施設であり、常勤医師は全員が日本リハビリテーション医学会または日本整形外科学会の専門医です。

施設基準は、脳血管(I)、運動器(I)、心血管(I)、がん、集団コミュニケーション療法、回復期リハビリテーション病棟を取得しており、当科は主治医として回復期リハビリテーション病棟(40床)を担当しており、急性期のリハ診療から病気に応じた対応を行っています。

対象となる疾患や障害が広範にわたる中で専門的な診療を進めていくために、県立リハビリテーションセンターと共同のチームを編成して活動を行う取り組みを行っています。2007年より高次脳機能、さらに2009年からは神経難病、がん、摂食嚥下、予防の現在6領



域について、診療、研究、研修会などの啓発活動など様々な活動をおこなっています。リハビリテーションセンターの開設から6年となりますが、社会参加の理念のもとに地域や関係諸機関と協力して、今後さらに充実すべく活動していきますので皆様方のご指導をお願ひします。

(科長 川上寿一)